CAMPUS NEWS
RIKKYO NIIZA

No.86
— November 2022 —

立教新座中学校・高等学校

特集

キャリア教育探究活動

将来を切り開いていく力を身につける
- 2022年度 高１学年独自の取り組み -

- INTERVIEW - 卒業生インタビュー
「自主自律の精神で動くことの大切さ」

特集

キャリア教育探究活動

将来を切り開いていく力を身につける

－2022年度 高1学年独自の取り組み－

立教新座では、キャリア教育を、生徒が自分の人生を自分でデザインし、将来を切り開いていく力を身につけるためのものだと捉えています。生徒たちは、中高時代のさまざまな体験を通して主体的に目標を決めることができるようになるので、将来の選択肢はどんどん広がっていくでしょう。学校は、生徒が決めたことを実現できるようにしっかりサポートしていきます。2022年度の高校1年生は、当学年独自の取り組みとして立教大学キャリアセンターと連携したキャリア教育探究活動を5月からスタートさせました。

INTERVIEW 教員インタビュー

卒業研究論文執筆に向けた体系的なカリキュラム

「2022年度から高校1年生でキャリア教育探究活動をスタートさせたのは、高校３年で卒業研究論文（卒論）を執筆するスキルや基礎学力を身につけてほしいからです」と話すのは、高校1年学年主任の島野誠大先生。具体的には、卒論のテーマを自ら設定する力、それに関する文献や資料の集め方、それらを分析・考察し、論文として完成させる力を3年間かけて養います。

島野先生が、これまで高校3年生の卒論を指導する中で感じたのは、高校生とは思えないハイレベルな卒論を書く生徒がいる一方で、テーマの設定から苦戦し、なかなか進めない生徒がいることでした。「どの生徒も一定レベルの卒論が書けるようにするためには、早い段階から論文のフォーマットに慣れさせる必要があると痛感しました。同時に、先ほど挙げた具体的なスキルも早い段階から身につけなければなりません」と島野先生は指摘します。

高校1年の5月に始まったキャリア教育探究活動は、立教大学キャリアセンターや企業と連携し、1年生の下半期と2年生の秋までの期間を使った校外研修旅行探究活動へと発展。2年生の11月からいよいよ卒論指導に入ります。島野先生とともにキャリア教育探究活動を担当する高校1年担任の荒井雅子先生は、「卒論の完成というゴールがあるので、そこから逆算して段階的に力をつけていけるように、体系的なカリキュラムを作成しました」と、オリジナルカリキュラムに自信を見せます。

1年生の前半は、立教大学キャリアセンターから出された自身のキャリアと立教大学の学部学科を関連づけさせる課題に取り組みました。これは与えられた課題を理解した上で自身の考えをまとめて他者に伝えるスキル、また、グループで取り組むことでリーダーシップスキルを培うことも目的のひとつとしています。9月にはグループごとに成果を発表し、各クラスの代表による発表会では、キャリアセンター担当者にプレゼンテーションを披露。島野先生は、「プレゼンテーションの資料は生徒たちに考える余白を持たせたかったので、あえてラフなひな形だけを示すようにしました。それをうまく応用してくれ、テーマに沿って内容を掘り下げられたと思います」と評価します。荒井先生も、「初めての取り組みにもかかわらず、想像以上に手ごたえがありましたね。グループはランダムに編成しましたが、自分たちで役割分担を決め、それぞれのキャラクターを生かした発表ができました」と振り返ります。

今後の校外研修旅行を利用した探究活動の事前指導では、立教大学大学院ビジネスデザイン研究科との連携もあります。4月から並行して学んでいる立教独自のリーダーシップ等も利用し、「共に学び続ける」生徒の育成を目指します。

高1担任／社会科教諭
荒井 雅子
Masako Arai

高1学年主任／理科教諭
島野 誠大
Masahiro Shimano

REPORT 活動レポート

成果発表会レポート

9月22日、高校1年生によるキャリア教育探究活動発表会がありました。5月に立教大学キャリアセンターから出された課題「立教大学の学部学科を調査し、大学WEBサイトを更新せよ！」の成果を、各クラスの代表グループが発表、最優秀賞には、「SNS」をキーワードに選んだグループが選ばれました。生徒からは、「大学の学部について調べたり、友人と意見交換したりしたことで、将来を考えるきっかけになり、とても有意義な時間でした」と、前向きな感想が多く寄せられるなど、大学進学への意識が高まったようです。

各クラス代表によるプレゼンテーション

生徒たちは、「SDGs」、「SNS」、「サブスク」、「Z世代」、「メタバース」、「推し活・ヲタ活」、「キャッシュレス」、「シェアリングエコノミー」、「ダイバーシティ」の9つのキーワードからグループごとに興味のあるものを1つ選び、立教大学のどの学部・学科・専修と繋がるかを考えます。5月のガイダンス後、6月から約4カ月をかけて調査を進め、プレゼンテーション資料を完成させました。優秀な発表は大学のWebサイトに掲載される可能性もあるとあって、準備にも力が入ります。

1グループは3〜5人。発表は、代表者の集まる教室から、他の生徒のいる各教室へもオンラインで配信するハイブリッド形式で行いました。発表する人と資料を展開させる人、役割分担をしたグループもあれば、全員が交代で発表し、説明するグループもありました。どの生徒も原稿を見ながら読むだけではなく、他の教室で視聴する生徒たちにも伝わるようスクリーンを指しながら説明します。中には、「感想の入力は止めて、考えながら聞いてください」と語りかけたり、歌を歌ったり工夫を凝らします。立教新座では中学校から人前で発表する機会を設けているので、生徒たちのプレゼンテーションスキルはもともと高いのですが、この半年でさらに上手く伝えられるようになりました。聞いている生徒は発表者に盛大な拍手を送り、感想と評価を各自の端末から入力して集計します。

プレゼンテーション資料は、先生に与えられたひな形に、自分たちでアレンジを加えて仕上げました。選んだキーワードの定義とそれに関連する立教大学の学部・学科・専修を必須項目とし、そこで何が学べるか、なぜその学部・学科・専修なのかなど、必要だと考えた視点をそこに盛り込んでいきます。例えば「推し活・ヲタ活」をキーワードにしたグループは、経済学科や観光学科でオタクの経済効果が学べることを挙げ、経済効果に関連するグラフや観光客数と経済についてのデータを示しました。

最優秀賞に選ばれたグループは、「SNS」をキーワードに、経営学科、メディア社会学科、心理学科ではSNSに関するどのような学びが得られるかを調べました。キャリアセンターの方々から、「立教大学は、自分の探究したいことをいろいろな視点で掘り下げることができる大学だという強みを主張したことに加え、大学に入ったらどういう学びができるかという広い視点で調べたことが素晴らしかった」とコメントをいただきました。

INTERVIEW 生徒インタビュー

－最優秀チームのコメント－

情報の取捨選択をしっかりと、広い視野で物事をとらえていきたい

高校1年

中村 一（写真一番左）
Hajime Nakamura

清水 陸斗（写真右から2番目）
Rikuto Shimizu

内田 寛樹（写真左から2番目）
Hiroki Uchida

齊藤 亘祐（写真一番右）
Kousuke Saitou

見事、最優秀賞に選ばれたのは、「SNS」とつながる学科・専修を調べた1組の内田寛樹さん、清水陸斗さん、中村一さん、齊藤亘祐さんのグループです。「4人で分担を決めて、全員で協力してきたので、最優秀賞に選ばれて本当に嬉しい」と内田さん。使う資料、構成、発表の仕方など、みんなが納得いくまで話し合い、時には帰宅後、電話で相談することもありました。清水さんは、「パワーポイントのスライドに統一感を持たせるように工夫しました。伝えたいことを簡潔にまとめられた」と振り返ります。中村さんは、キャリア教育探究活動を通じて、これまで進学先としてあまり視野に入れていなかった社会学部にも興味がわいてきたそう。「SNSとのつながりを調べる中で知ったメディア社会学科もおもしろそうだなと思うようになりました。これからもいろいろな学部や学科を調べてみたい」と考えています。

4人とも、「SNS」をインターネット上で調べたときの情報の多さに驚いたそう。「インターネットは便利だけど、情報の取捨選択をしっかりしなければ間違ったまま進んでしまうので、メディアリテラシーの大切さを実感しました」と言います。「今回の受賞を自信にして、さらに広い視野で物事をとらえていきたい」と話してくれました。

COLUMN 立教大学キャリアセンターより

大学で自分がどう学ぶかまで考えられた プレゼンテーションの質の高さに驚き

立教大学キャリアセンターでは、「就職はゴールではない。1人の人間として生きていくためのマイルストーンの一つ」と捉え、大学1年次や2年次の早い時期から学生への支援を行っており、そういった考えのもと、2020年から高校生向けのキャリア教育も行っています。今回、立教新座高校から高校1年生向けのキャリアプログラムを高大連携で考えられないだろうかと打診があり、当センターでも初めて高校1年生向けのプログラムを考えることになりました。一番に大切にしたことは、大学の学部を成績順だからとなんとなく選ぶのではなく、本当に行きたい学部を理解した上で選んでほしいということです。「自己決定の習慣をつけるのに早すぎることはありません。立教大学に身近な興味と関わりのある学部があることを生徒に知ってもらい、その中から進学先を絞り込んでいってほしい」と藤澤さんは考えます。

9月22日のプレゼンテーションを聞いて「学部とのつながりを調べるだけではなく、大学に入ったらどういう学びができるかという広い視点で調べてくれたのは想定外でした」と生徒たちの発表を評価します。さらに、「プレゼンテーションの質が高くて驚いた。大学生にも負けないくらいですよ」とも。ただ、「プラスの面ばかりに目がいってしまう傾向にあるので、物事のマイナス面にも目を向けてほしい」と課題も残ります。

「やりたいことは知っていることの中からしか生まれません。キャリア教育探究活動を通していろいろな知識や考え方に触れることができるので、将来の選択肢が自然と増えていくのではないでしょうか。中高での経験すべてが、自分の将来につながることを意識してすごしてほしいと思います」と藤澤さんは話してくれました。

立教大学キャリアセンター
藤澤 瞬　さん
Shun Fujisawa

キャリア教育探究活動の流れ

| 高校1年生の4月から10月の取り組み |

April

4月

新入生ガイダンス

リーダーシップ教育を取り入れたグループ活動。自己紹介をかねて、自身の強み弱み（フォローしてほしいこと）を伝えるなど。

May

5月

OB講話会

さまざまな職業に就くOBから、大学や仕事内容など話を聞き、自身の将来について考える。

キャリアセンターによる課題発表

立教大学入学センターによる学部学科紹介とキャリアセンターから近年の就職動向やキャリアに関する考え方などの説明のあと、課題が発表された。

May to September

5月～9月

グループワーク

各班で作業を進める期間。
毎週木曜日3限の1時間を活用。班によっては時間外（夏休み含む）も使っていた様子。

September 15

9月15日

クラス内発表

各クラスでグループごとに発表。発表後、評価をフォームに入力し、評価が高かったチームがクラス代表に選ばれる。

September 22

9月22日

クラス代表発表

8クラス8グループによるプレゼン。立教大学キャリアセンターにより最優秀作品が選ばれる。

October

10月

立教大学特別授業

立教大学教員による特別授業を受講。「学部学科でどのようなことを学ぶのか」をより具体的に知る。

INTERVIEW 卒業生インタビュー

2013年度卒業生／清水建設株式会社 九州支店 総務部 人事グループ　所属

伊藤 太一 さん

Taichi Ito

｜Profile｜

2011年　立教新座中学校卒業
2014年　立教新座高等学校卒業
2018年　立教大学経済学部会計ファイナンス学科卒業
2018年　清水建設株式会社に就職

自主自律の精神で動くことの大切さ

高校時代のやりとりが就職先の決め手に

私は、清水建設株式会社の九州支店で、人事に関する仕事をしています。九州全県と沖縄が管轄で、採用面接や社員教育、人事評価の取りまとめ、震災対策などが主な業務です。建築・土木工事の全体を請け負う会社なので、一つひとつの工事が無事に終わり、お客さまの手に渡ったときは心から安心します。

私が清水建設を就職先に選んだきっかけのひとつは、立教新座の校舎建て替えを同社が担当していたことです。高校3年、私が学友会長を務めていたときの文化祭は工事期間中に実施されたうえに、当日は台風直撃の予報。私は、どうやってお客さんの安全を確保するかについて清水建設の担当の方々と話し合うことになりました。高校生である私の意見に真摯に耳を傾け、工事を止めてくれたり、通路を作ってくれたり、力を貸してくださったおかげで文化祭は大成功でした。その時の社員のみなさんの誠実な対応が心に残ったのと、もともとインフラに関する仕事がしたかったことが重なり、清水建設への就職を希望したのです。

支えとなった自主自律の精神

「伊藤に学友会長になってほしい」。友人からの推薦がきっかけで学友会長に立候補しました。会長に選ばれてまず驚いたことは、部活の予算を私たち生徒が管理することです。全体の予算が決まっている中で各部からは「もっと予算がほしい」と言われるわけで、その折衝はとても大変でした。その中で学んだのは、「伝え方・表現方法で話の流れは変わる。感情的にならずに、根拠を丁寧に示すことで、相手と冷静に、よい交渉ができる」ということです。お互いが納得して前に進めていくようにしていました。

一番思い出に残っているのは、先ほど話した文化祭当日のエピソードです。天気予報通り、午前中は大雨。午後には晴れ間が出たもののフィールドが水浸しで、毎年恒例だった花火大会が中止になりそうでした。そこで、野球場から土をフィールドに運ぼうということになったのですが、私たちが呼びかけると大勢の生徒たちが快く引き受けてくれて、無事、花火を打ちあげることができました。協力してくれたみんなと、それを見守ってくださった先生のおかげです。感動して泣きながら花火を見上げたことは今でも忘れられません。

学生時代の経験はすべてプラスになる

大学では、立教新座を卒業して活躍する仲間たちを記事を通して応援したいと、体育会機関紙「立教スポーツ」編集部に所属しました。高校でのつながりが大学でも続き、同じ時間を過ごせることは大学一貫校ならではの魅力だと思います。3、4年生では編集長を務め、同時に体育会委員長を兼務するなど、いろいろな役職を経験させていただく中で、基盤になったのは、学友会長時代の経験です。人との話し方や自身で考えて行動を起こすことの大切さは、卒業して、今の仕事にも生かすことができています。

中高大で、気の置けない仲間とのつながりもできました。私は、立教新座で相手の良いところを尊重してくれる友人と出会えたことが本当に幸運だと思っています。お互いに就職してなかなか会うことができなくなっても、近況報告をすれば盛り上がりますし、何より多くの思い出を共有できていることは貴重です。

立教新座の生徒の良いところは、何かをやるときに瞬発力があるところだと思います。それは、普段から自分で考えて行動する、自主自律の精神があるからこそです。学生時代のどんな経験もその後の生き方にプラスになるでしょう。みなさんも、自分で考え、「これだ！」と思ったことに一生懸命取り組んでいってください。

（取材：2022年9月）

＜公式 Web サイト・SNS について＞

本誌の内容は、本校 Web サイトや SNS でもご覧いただけます。また、Web サイトや SNS では、本校での出来事など、日々の学校生活の様子が垣間見られるような情報や写真を発信しています。ぜひ、ご覧ください。

Webサイト　Facebook　Instagram　LINE　note

※在校生への緊急時のお知らせは「立教新座配信メール」で確認してください。

CAMPUS NEWS
RIKKYO NIIZA
キャンパスニュース 立教新座

2022 年 10 月 29 日発行　第 86 号
発行／立教新座中学校・高等学校　教務・入試広報課
〒352-8523　埼玉県新座市北野 1-2-25
TEL.048-471-6648 [入試窓口]
https://niiza.rikkyo.ac.jp/

2022年9月取材。取材・制作等に際して十分な配慮を行っています。